

CITY OF YOKOHAMA

横浜市の循環型都市への挑戦

政策経営・国際戦略局グローバル都市戦略課
谷澤 寿和



横浜市

1 循環型都市への挑戦の原点

2 サーキュラーエコノミーへの移行に向けた政策形成

3 アジア太平洋地域における循環型都市の推進

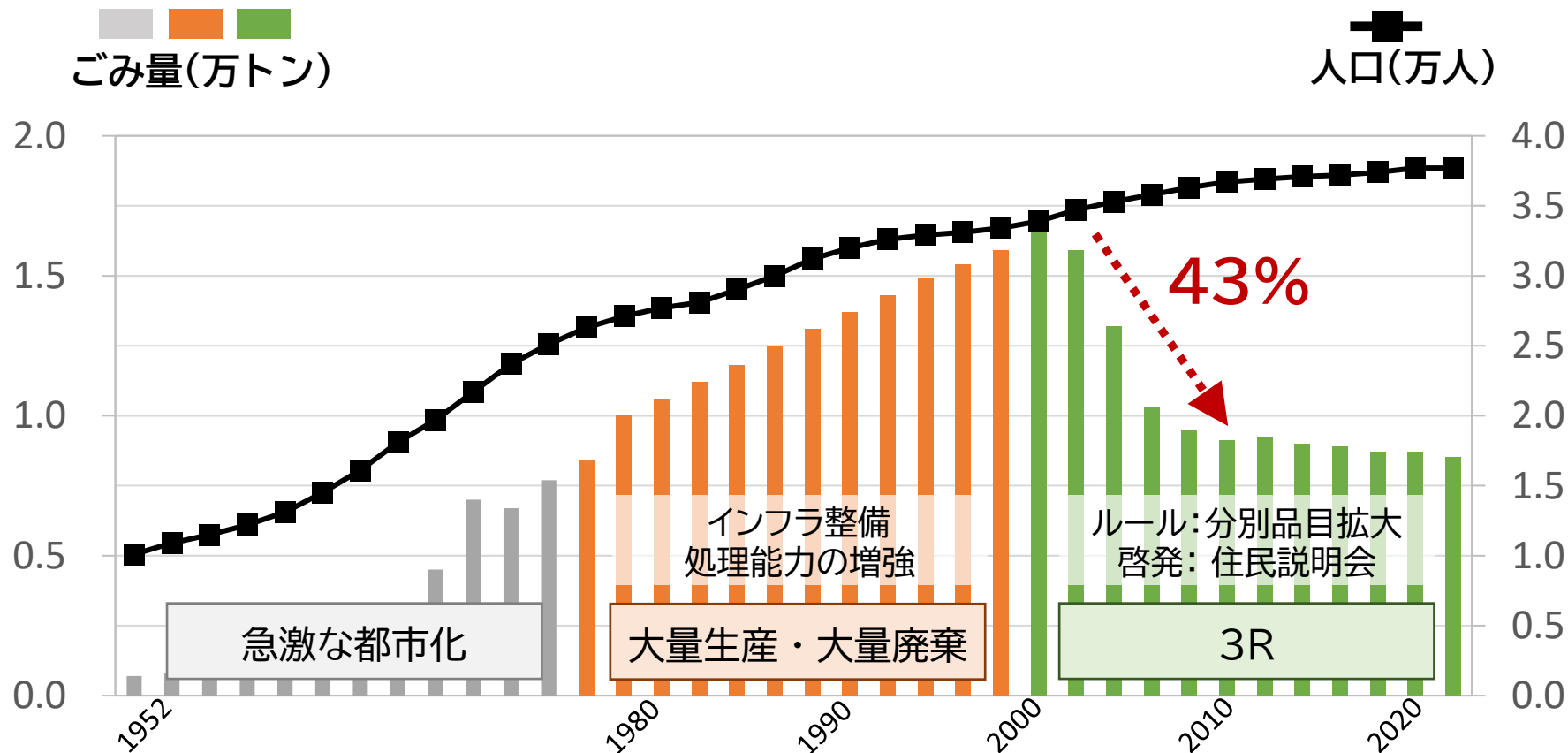
1. 循環型都市への挑戦の原点

1-1. 急激な人口増加と都市課題



1. 循環型都市への挑戦の原点

1-2. 人口増加の中でのごみ減量



2. サーキュラーエコノミーへの移行に向けた政策形成

2-1. 横浜サーキュラーリンク

「たべる」サーキュラー

横浜の「農」を
生かした食の循環

食品廃棄物の堆肥化・リサイクル



「つなぐ」サーキュラー

動静脈連携により、再生
資源の更なる活用を目指す

製品製造など「動脈産業」× 再資源化など「静脈産業」



「つくる」サーキュラー

社会情勢変化を経済成長の
きっかけにつなげる

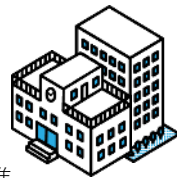
サーキュラー産業の誘致・集積・エンパワー



「くらす」サーキュラー

資源の宝庫である「建物」
のサーキュラー化

再利用しやすい設計や、リノベーションの推進



「とりくむ」サーキュラー

身近な取組から
未来を変えていく

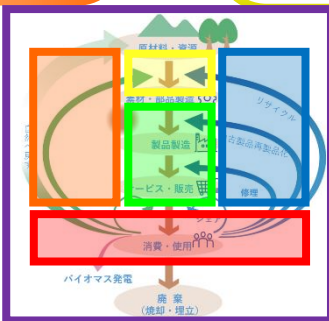
廃食油・服など、生活に身近なチャレンジ



「みえる」サーキュラー

物質循環の流れを
「見える化」

各地域での資源循環率の向上へ



これらの取組を広く世界へ発信し、アジアを代表する循環型都市へ

2. サークュラーエコノミーへの移行に向けた政策形成

2-2. 2026年度の主な取組①

「たべる」サーキュラー

食品廃棄物等を活用した循環の推進



- 食品廃棄物の堆肥化やリサイクル下水処理で取り出した「再生リン」入り肥料の活用などを推進
- 横浜市の学校の子どもたちが生ごみから堆肥を作り、横浜グリーンエキスポの会場で使用

「つなぐ」サーキュラー

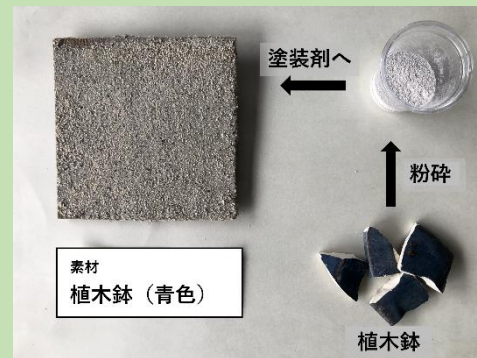
製造業とリサイクル業の連携促進



- 「横浜市資源循環推進プラットフォーム」を通じ、リサイクル材のさらなる活用（動静脈連携）を促進
- 製造業者が求める品質のリサイクル材を確保するため、衣装ケースのような単一素材のリサイクルを進める。

「つくる」サーキュラー

産業のサーキュラー分野支援



身の回りの素材を粉碎して塗料にするキットの開発
(令和6年度 横浜市中企業新技術・新製品開発促進助成)

- サーキュラーエコノミー分野に取り組む企業の市内進出等を助成金等により支援
- 市内中小企業の新技術や新製品の研究・開発費用の助成による先進的な取組の後押し、セミナー等による循環型経営への転換の促進

2. サーキュラーエコノミーへの移行に向けた政策形成

2-3. 2026年度の主な取組②

「くらす」サーキュラー 公共建築のサーキュラー設計



- 建築物の解体のしやすさやリサイクル材の使用率などを数値化して評価する「よこはまサーキュラー指標」を策定
- 併せて、建材を再利用しやすい設計手法や再建材化の仕組みづくりを進め、サーキュラー建築の実現を目指す

「とりくむ」サーキュラー 身近な衣類分野でのサーキュラー展開



- 市民の皆様から不要となった衣類を回収し、その一部を再生することで、横浜グリーンエクスポにおける横浜市出展施設のスタッフユニフォームに活用
- 市民・企業・行政の協働による本取組を契機として、循環の実感や行動変容につなげる

「みえる」サーキュラー 公共施設の廃棄物の流れの見える化



- 従来から進めている、みなとみらい地区での循環可視化の取組に加えて、市役所関連施設約1,200か所において廃棄物の質と量を見える化
- 見える化したデータを活用し、さらなる再資源化につなげる

3. アジア太平洋地域における循環型都市の推進

3-1. 日本の自治体・企業にとっての アジア循環型都市宣言（ACCD）の意義

1

より良い自治体政策づくり

- ▶ CEは試行錯誤の段階だからこそ相互学習に意味
- ▶ 企業と連携した実践を他都市と共有（企業にとってもPR）

▶ 実践集

2

実装の促進

- ▶ 自治体の政策介入（規制・誘導・啓発）が市場形成を促進
- ▶ アジア太平洋地域全体で都市への実装の予見可能性を高める

▶ アクションプラン

3

都市の声の発信（アドボカシー）

- ▶ 都市のニーズを国や国際機関に届け、政策・制度の議論に反映
- ▶ 世界におけるアジア太平洋地域の発言力の向上

▶ 政策提言

3. アジア太平洋地域における循環型都市の推進

3-2. アジア太平洋循環型都市フォーラム（APCCフォーラム）



サーキュラーエコノミーの第一線で活躍する国内外のリーダーやイノベーターが横浜に集結し、環境と経済が両立する循環型の都市への道筋と具体行動を議論

日 程

2026年**9月2日（水）**、**3日（木）**、**4日（金）**

※2日は、海外都市関係者向けのエクスカージョンを実施

会 場

パシフィコ横浜ノース

主 催

横浜市

共同主催

イクレイ日本

連携機関
(調整中)

アジア開発銀行/アジア開発銀行研究所（ADB/ADB I）、シティネット(CityNet)、サークルエコノミー(Circle Economy)、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)、一般社団法人海外環境協力センター(OECC)、世界銀行東京開発ラーニングセンター(TDLC)、世界経済フォーラム(WEF)、国連開発計画(UNDP)、国連人間居住計画(UN-Habitat)

テーマ

アジア太平洋地域における循環型都市移行への道筋
～都市の結束と具体行動をGREEN×EXPO 2027とその先へ～



3. アジア太平洋地域における循環型都市の推進

3-3. 何を議論するか（セッション先取り）

循環型都市への道筋とは

～プレナリーセッション～

- ▶ 都市や国際機関の代表が、アジア太平洋地域の特徴を踏まえた循環型都市への移行のあり方やACCDの方向性を議論
- ▶ 横浜グリーンエキスポの最新情報と、都市の実践を共有

企業は都市に何を求めるか

～ビジネスセッション・官民対話～

- ▶ 製造・建築・DX・包装分野の企業がCE導入の発表と、自治体政策への期待を提起
- ▶ 自治体政策と公民連携の可能性を議論

新興国インフラPJをいかに進めるか

～ファイナンス・セッション～

- ▶ アジア特有の都市化課題に対応するため、WtE等資源循環インフラと資金動員のあり方を議論
- ▶ 国際機関と都市、民間企業の連携による実効的な案件形成の道筋を提示

都市連携をいかに機能させるか

～都市間連携セッション～

- ▶ 先進都市にとっても意義のある連携や、民間企業・ソリューションプロバイダーの参画を通じた事業化の可能性を議論
- ▶ 政府や国際機関による支援メカニズムとの連携可能性を議論

プラスチック汚染への都市の役割とは

～プラスチック汚染・自治体セッション～

- ▶ 国際プラスチック条約に向けた、プラスチック汚染に関する政府間交渉委員会（INC）の議論の状況も踏まえ、都市が担う役割や、国際条約、国の制度、企業との連携を議論



ウェブサイト・参加登録

3. アジア太平洋地域における循環型都市の推進

3-4. Yokohama Circular Week 2027

国際サーキュラー 総合展

2027.8.31～9.2

主催: 国際サーキュラー総合展 実行委員会

企画運営: RX Japan合同会社

特別協力: 横浜市

@パシフィコ横浜 展示ホール(予定)



第9回 アジア太平洋都市フォーラム
(APUF-9)

2027.8.30～9.3

主催: 国連アジア太平洋経済社会委員会
(ESCAP)、横浜市

@パシフィコ横浜ノース(予定)



アジア太平洋循環型都市フォーラム
(APCC-Forum) 2027

2027.8.31～9.2

主催: 横浜市
共同主催: イクレイ日本

出展 **350** 社、来場 **3** 万人見込み



開催発表会
(2026年7月23日)